

オリ・パラ開幕まで半年を切った。開催による経済効果を最大限享受できるように、官民一体の「オール千葉」体制で開催準備を進めたい。

オリ・パラ開幕まで半年を切った。国内では、仕切り直しとなった競技会場の確保や聖火リレーの新たなスケジュールが決定したほか、県内では、7競技を受け持つ「幕張メッセ」の改修が完了し、サーフィン競技会場への玄関口となるJR上総一ノ宮駅の東口が供用開始されるなど、開催を前提に大会準備が進められている(図表1)。

感染第3波が押し寄せる中で行われた、観戦チケットの払戻申請状況を見ると、オリンピック18%、パラリンピック21%(12月末時点)となり、購入者の8割は、大会開催・観戦を望んでいることが明らかになった。また、当社が県内企業を対象に実施したアンケート調査(千葉経済センターからの受託調査、19年7月実施、回答企業328社)では、オリ・パラ開催が与える千葉県経済全体への影響(経済効果)に「期待している(大いに+やや)」と回答した企業は7割を占め、8競技が開催される県内への経済波及効果に期待する声も大きい(図表2)。

千葉県は、19年秋に大型台風や大雨に相次いで見舞われ、甚大な被害を受けた。さらに、昨年2月以降はコロナ禍の影響が県内に広がり、苦境に立たされている企業や個人は少なくない。

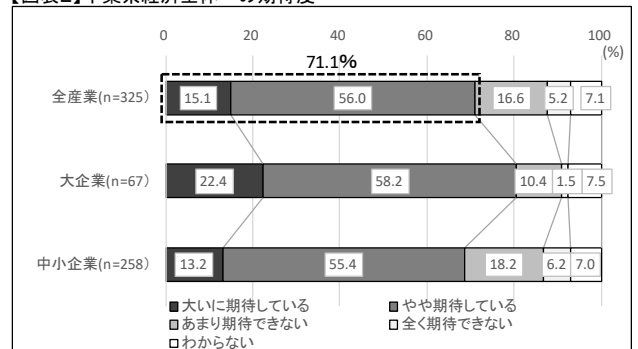
オリ・パラ開催は、自然災害やコロナ禍に打ち克った千葉の安心安全を世界にアピールするとともに、その知名度を一気に高める絶好のチャンスである。1月7日に1都3県で「緊急事態宣言」が発出され、これが長引けば、予定通り(フルスタジアム)の大会開催が危ぶまれる状況となりかねないが、2月下旬にはわが国でも始まるとされているワクチン接種の効果に期待するとともに、一人ひとりが新しい生活様式(ガイドライン)を徹底して感染拡大を抑止し、できる限り予定通りの大会開催への道筋をつけたい。そして、オリ・パラ開催意義を「自然災害・コロナ禍からの復興の加速とレガシー創出の機会」と位置づけ、経済効果を最大限享受できるように、官民一体の「オール千葉」体制で引き続き開催準備を進めたい(大塚)。

【図表1】開催に向けた主な動き

日付	出来事
20年 1月15~29日	パラリンピック観戦チケット第2次抽選販売(2月18日結果発表)
3月20日	聖火が日本に到着
3月24日	オリ・パラ開催の1年延期が決定
3月30日	新たな開催日程が決定(オリンピック:7月23日~8月8日、パラリンピック:8月24日~9月5日)
6月10日	大会組織委員会が大会の「位置づけ」、「原則」、「ロードマップ」を公表
7月1日	JR上総一ノ宮駅東口が供用開始
7月17日	オリンピックの競技スケジュール・会場が決定
8月3日	パラリンピックの競技スケジュール・会場が決定
9月25日	IOCと大会組織委員会が52項目の簡素化を進めることで合意
9月28日	聖火リレーの新たな日程が決定
11月8日	「体操国際競技会(友情と絆の大会)」開催
11月10日~30日	オリンピック観戦チケットの払い戻し受付(パラリンピックは12月1日~21日)
11月14日	「バラスポーツフェスタちば2020」開催
12月2日	政府、都、大会組織委員会のコロナ対策会議が中間報告を公表
21年 3月4日	テストイベント再開
3月25日	オリンピック聖火リレーがスタート(千葉県は7月1~3日)
春	観客数上限や海外観客の受け入れ方針決定
7月23日	オリンピック開会式
8月24日	パラリンピック開会式

(出所)各種資料をもとにちばぎん総合研究所が作成

【図表2】千葉県経済全体への期待度



(出所)千葉経済センター

【図表3】県内で開催されるオリ・パラ競技

	会場	収容人数(人)	開催日程	
オリンピック	フェンシング	Bホール	8,000	7月24日~8月1日
	テコンドー	幕張メッセ Aホール	10,000	7月24~27日
	レスリング	Aホール	10,000	8月1~7日
	サーフィン	釣ヶ崎海岸	6,000	7月25~28日
パラリンピック	ゴールボール	Cホール	5,500	8月25日~9月3日
	車いすフェンシング	Bホール	7,000	8月25~29日
	シットイングバレーボール	Aホール	10,000	8月27日~9月5日
	テコンドー	Bホール	7,000	9月2~4日

(注)1. 出所:大会組織委員会  
2. 釣ヶ崎海岸サーフィンビーチでは、7月25日~8月1日の間、サーフィンフェスティバルが開催される。